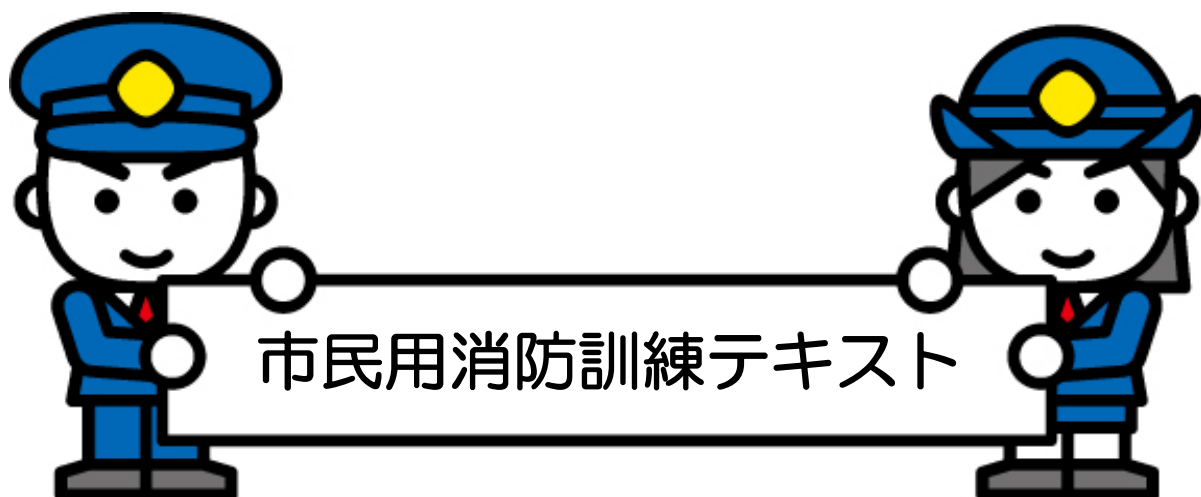




亀山市消防本部

令和7年4月1日作成

目 次

消火器の取扱い	2
消火栓格納箱及び消火栓の取扱い	5
救助救出方法	10
傷病者の搬送要領	14
避難方法	18
『119番』通報の正しいかけ方	20

1 消火器の取扱い

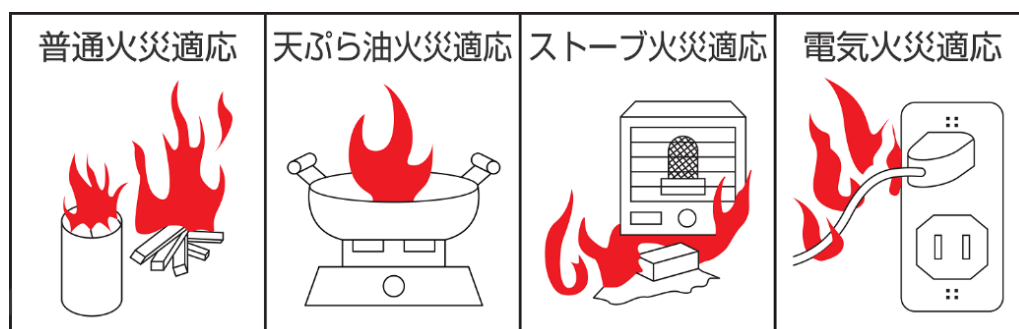
① 消火器の選び方

消火器は、「住宅用」と「業務用」に大別されます。

住宅には軽量で扱いやすい「住宅用消火器」を備えることを推奨しています。
※消火器の設置義務がある飲食店や露店などには「業務用消火器」が必要となります。

《住宅用消火器》

住宅用消火器は、住宅火災に適した消火器として開発された軽量の消火器で、誰でも簡単に操作できます。本体の色は、メーカーによりいろいろなものがあります。適応する火災は「普通火災」「てんぷら油火災」「ストーブ火災」「電気火災」のいずれかになります。本体に表示されている以下の絵を確認して、用途に合った消火器を選んでください。



《業務用消火器》

業務用消火器は、消防法により消火器の設置が義務付けられている場所へ設置する消火器です。住宅用と比べて大型で適応する火災は「普通火災（A）、油火災（B）、電気火災（C）」の絵で表示されています。

住宅用消火器の耐用年数は5年程度、エアゾール式（スプレー式）は3年程度です。業務用消火器の耐用年数は8～10年です。住宅用消火器（エアゾール式以外）、業務用消火器は一般廃棄物として処理できませんので、購入した店舗に問い合わせるか、お近くの特定窓口または引取所にご連絡ください。エアゾール式はスプレー缶として処分してください。

リサイクル窓口検索（消火器リサイクル推進センター）

<https://www.ferpc.jp/accept/>



② 消火器の使用方法



火災を発見！

『火事だ！』と大きな声で周囲の人に知らせる。

周囲の人に火災が発生していることを知らせて、避難を促すとともに初期消火や 119 番通報を行ってもらいましょう。



消火器のレバーの下側を持って運ぶ

火災を発見したら、消火器を持って火元の近くまで移動します。消火器を運ぶ際は、消火剤を噴射してしまわないように、レバーの下側を持ちましょう。

火元に近づくときは、できるだけ姿勢を低くして、炎や煙を避けながら焦らずゆっくりと近づくことも大切です。室内の火災の場合は、非常時にすぐ避難できるよう注意しながら消火します。屋外の火災の場合は、風上から噴射するように注意しましょう。



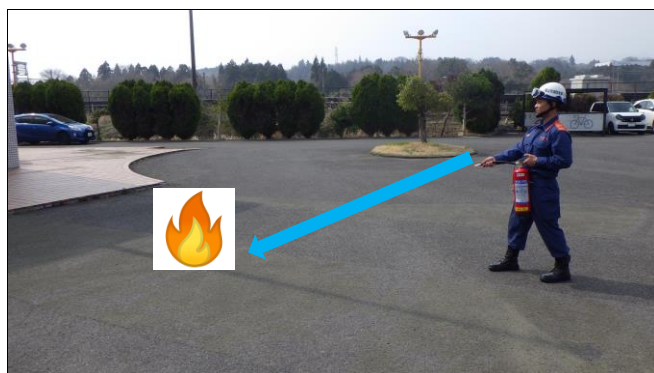
消火器の安全栓を引き抜く

火元にある程度近づいたら、消火器の上部に付いている黄色い安全栓を引き抜きます。火元からの距離は、炎の高さの 2～3 倍を目安としましょう。住宅用消火器の場合、放射距離は 2 メートル程度であるため、あまり離れると効果がありません。



消火器のホースをはずして火元へ向ける

安全栓を抜いたら、消火器のホースをはずして火元に向けます。炎の上部ではなく、火元に向けるのがポイントです。噴射したときに、勢いでホースの向きが変わらないよう、先端をしっかりと持ちましょう。



消火器のレバーを強く握って噴射する

ここまでの準備ができれば、消火器のレバーを強く握って消火剤を噴射しましょう。住宅用消火器の場合、放射時間は10～15秒程度です。火元を狙って一気に消すイメージで噴射しましょう。

③ 消火の際の注意点

消火器はすぐに使える場所に設置しておく

消火器は、コンロなどの火元から離れた場所に、すぐに使えるよう高所は避けて設置しましょう。火災が発生しやすいキッチンや、廊下、玄関など目につきやすい場所に設置するのがおすすめです。また、湿度が高すぎる場所や直射日光が当たる場所に設置すると、消火器が劣化しやすくなります。屋外に設置する場合は、破裂事故を防ぐために専用の格納箱に入れて保管する必要があります。

初期消火ができない場合は速やかに避難する

炎が天井まで達してしまった場合、消火器での初期消火は困難です。身の安全を第一に考え、天井に燃え移ったらすぐに消火活動を中断して避難しましょう。被害を最小限に抑えるためにも、火災時には早期の発見が重要となります。

2 消火栓格納箱及び消火栓の取扱い

消火栓による初期消火活動は、最低3人(注水者・伝達者・消火栓開閉者)で行い、単独操作は絶対に行わないでください。操作は慌てずにゆっくりと確実にいき、事故防止に努めてください。

① ホース格納箱（消火栓ボックス）



② ボックス内にある道具



③ 地下式消火栓

○ 蓋の種類



『○』は、消火栓ハンドルの差込口

○ 消火栓内部



※ バルブは放水準備が整うまで開けないように注意してください。

④ 消火栓の使用法

《ふたの開け方》

消火栓ハンドルの先端(先が平らな方)を、蓋の消火栓ハンドル差込口へ入れ、てこの原理で蓋を開放します。

蓋が固く閉まっているものは、挟まっている砂を除去し、ハンドルで叩き衝撃を加えると開き易くなります。

蓋は非常に重いので、腰や足元に注意しながら開けてください。



《ホースの展張要領》

二重巻きホースのメス金具近くを押さえ、オス金具を確実に保持し、左手はホースに添えて展張方向を定め、前方へ転がして延ばしてください。



《消火栓への結合》

ホースのメス金具を消火栓の吐水口に結合し、ハカマ部分を両手で引いて結合を確認します。



《ホースの結合》

2本目を使用する場合は、1本目と同じ要領で展張し、オス金具とメス金具をおしつけて結合した後、ハカマ部分を引っ張って結合を確認します。



《筒先にホースを結合》

ホースを延ばしきったら、放水者の筒先にあるメス金具にホースのオス金具をおしつけて結合し、引っ張って結合を確認します。



《基本注水姿勢》

取手と筒先上部をしっかり握り、火元に向けて放水します。ひざをやや曲げると同時に体重を前方に置き、前傾姿勢をとります。



《伝達要領》

注水者が注水体制をとった後、伝達者に放水開始の指示をして消火栓開栓者に伝達を依頼します。なお、放水を中止する場合も同様です。



《消火栓の操作》

補助者から放水開始の指示を受けたら操作を開始します。バルブの開放はゆっくりと状況を確認しながら行います。急激な開放は負傷につながるおそれがありますので注意してください。

※ 訓練ではバルブ開放は絶対に行わないようにしてください。

《筒先の操作》

注水者は、筒先に可変ノズルがついている場合は、ノズルを開放して棒状や噴霧状の調整をして消火してください。



⑤ 定期的な確認・点検

一般的に、ホース格納箱の中には、ホース、消火栓開閉ハンドル、管そうが入っていますが、一つでも欠けると消火活動を行うことができません。

全国的に、ホース格納箱に収納されている器具が盗難される事案が発生しています。

各自治会や自主防災組織で管理するホース格納箱の定期的な確認・点検をお願いします。

《点検要領》

- ・ 格納箱本体に大きな破損や錆びがないか確認します。
- ・ 扉の変形等により開閉に支障がないか確認します。
- ・ 収納資機材（ホース、管そう）の結合部分（金具）が正常に動くか、結合させて確認します。
- ・ ホース内張のゴムやホース全体に明らかな変形等がないか確認します。

3 救助救出方法

① バールを使った救出方法

バールは、てこの力を使って重い物を動かすことが可能で、下図のように地震等の災害時に、建物や車などに閉じ込められた人を安全な場所に救出するため、がれきを持ち上げたり、ドアをこじ開けたり、窓を破壊するのに有効です。



救出の流れ

《状況確認》

重量物に挟まれている人や閉じ込められている人を確認し、バールで持ち上げる場所や開放する所を選定します。



《重量物持ち上げや開放》

バールで重量物を持ち上げやドア等を開放します。倒壊した家屋等では大変不安定な状態になっていますので持ち上げる高さは最小限にしてください。持ち上げてスペースができたならあて木を差し込みます。



《救出》

素早く引きずり出し、安全な場所に搬送します。

救出後は、更に倒壊するおそれがあるため、現場には近づかないようにしてください。



② ジャッキを使った救出方法

ジャッキは、地震等の災害時に建物等に閉じ込められた人を安全な場所に救出するため、がれき等を持ち上げるのに有効です。ボールよりも重い物を持ち上げることができますが、設置するには一定のスペースが必要です。すき間が狭く、設置が困難な場合は、ボール等によりすき間を広げてから使用します。



救出の流れ

《状況確認》

ジャッキアップポイント(ジャッキを置いて、重量物を持ち上げる場所)を選定します。※平らな場所を選びます。



《重量物持ち上げや開放》

ジャッキが重量物に当たるまで伸ばします。すき間が狭く、ジャッキが入らない場合は、ボール等を使用して、この原理ですき間を広げてからジャッキを設置します。ゆっくりと伸ばして重量物を持ち上げていき、持ち上がった角材などを差し込みます。



《救出》

素早く引きずり出し、安全な場所に搬送します。
救出後は、更に倒壊するおそれがあるため、現場には近づかないようにしてください。



4 傷病者の搬送要領

① 担架による搬送

応急的に作成した担架を用いて行う搬送方法です。

担架は、原則として足側を前にして搬送しますが、急な坂道での搬送は傷病者に負担をかけないため頭側を高くして搬送します。

《毛布で作る担架》

毛布の1 / 3のところに棒を置いて、棒を包み込むように折り返します。
折り返した毛布の端にもう1本の棒を置き、折り返して完成させます。



(毛布のみで棒がない場合)

毛布の両側を巻き込んで取っ手を作ります。



《服で作る方法》

服の両袖を下図の要領で棒に通して完成させます。



② 徒手による搬送

応急手当を終えた傷病者を搬送する、または危険な場所にいる傷病者を安全な場所に移動させる場合の方法です。担架が使えないような場所や、担架が作れない場合、または緊急に安全な場所へ移動させる必要がある場合に行います。

《引きずって搬送する方法》

おしりをつり上げるようにして移動させます。



《背負って搬送する方法》

傷病者の両腕を交差または平行にさせて、両手を持って搬送します。



《横抱きで搬送する方法》

小児、乳児や小柄な人は横抱きにしたらほうが楽に搬送できます。



《毛布、シーツを利用する方法》

毛布、シーツにくるんだ状態で引っばります。

（傷病者の胸腹部を圧迫することが多いので注意が必要です。）



③ 2名で搬送する場合

《傷病者の前後を抱えて搬送する方法》 《手を組んで搬送する方法》



注意点

- ※ 傷病者の首が前に倒れるおそれがあるので、気道の確保に注意します。
- ※ 2名がお互いに歩調を合わせ、搬送に際して傷病者に動揺を与えないようにします。

④ 3名で搬送する場合

《3名で傷病者を持ち上げ搬送する方法》



- ※ 傷病者の両側に互い違いに位置します。
- ※ 傷病者の足側の膝をつき、頭側の膝を立ててしゃがみます。
- ※ 両腕を傷病者の下に十分に差し込みます。
- ※ 3名が同時に立ち上がり、移動を開始します。

5 避難方法

- 火災で亡くなる原因で最も多いのが「逃げ遅れ」です。
- 外出先で火災に遭遇したときは、服装や荷物にこだわらず、できるだけ早く避難を開始しましょう。

① 煙の怖さ

- 火災が大きくなってくると煙が強く熱せられます。
- 熱せられた煙は、毎秒3～5mで勢いよく上昇します。また、横への広がりも、毎秒0.5～1mです。
- 煙には、一酸化炭素や塩素ガスなどの有毒ガスが含まれているため、大変危険です。

② 火災からの避難のポイント

- 天井に火が燃え移った場合は避難を優先してください。
- 避難はお年寄り・こども・病人・障がい者を優先しましょう。
- 服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く避難しましょう。
- 煙の中を逃げるときは、できるだけ姿勢を低くして、濡れたタオルで口と鼻を覆い、室内なら壁伝いに脱出しましょう。
- 避難した後は、再び中に戻らないようにしてください。
- 避難するときにエレベーターを使用しないようにしてください。
- 自室から出火したら窓やドアを閉めて、他へ類焼しないようにして避難しましょう。

③ 着衣着火した場合の対処方法

「ストップ、ドロップ アンド ロール」

(止まり、倒れて、転がる) で消火する。

- 衣服に火がついたまま走ると、かえって火の勢いを大きくするので、その場に止まります。



- 燃えているところを地面に押しつけます。



- ゴロゴロと転がることで、衣服についた火が地面と当たって広い範囲の火も消すことができます。



5 『119番』通報の正しいかけ方

通報は 【落ち着き・ゆっくり・はっきりと！】



① 119番通報のしかた（安全な場所から通報してください。）

- ・ 種別 火災・救急・救助のどれが必要か伝える。
- ・ 場所 住所と名前（世帯主）及び電話番号又は、目標になる建物(コンビニ・学校・ホテル等)を伝える。
- ・ 内容 （状況によりお尋ねする内容は異なります。）

《火災の場合》

- ・ 何が燃えているか？（建物、車両、山林など）
- ・ 出火場所はどこか？（台所、寝室など）
- ・ 何階の建物か？
- ・ 逃げ遅れは何人か？
- ・ けが人は何人いるか？
- ・ 周囲への延焼状況は？

《救急の場合》

- ・ 性別・年齢は？
- ・ どのような状況か？
- ・ 意識は？
- ・ 呼吸はしているか？
- ・ 歩行できるかどうか？
- ・ 過去の病歴は？
- ・ かかりつけの病院は？

《救助》

- ・ 車内等に挟まれていたり閉じ込められていないか？
- ・ 何台の事故か？
- ・ けが人は何人いるか？



亀山市消防本部ホームページからダウンロードできます。

<https://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/article/2015031600035/>

